

中海自然再生マップ

よみがえり おうき いりうみ
甦れ! 飢宇の入海

このマップは、遠く太古の昔から豊かな自然の恵みのもとに、人々の暮らしを支えてきた中海の姿と、そこに生き続けてきた人々の暮らしを紹介！
中海干拓・淡水化事業などで失われた自然を取り戻すための再生事業の取り組みや、中海が飢宇の入海と呼ばれていたいにしへの文化に触れる小旅行のガイドです。
マップを手にとって、さあ出かけましょう私達の中海へ。



枕木山からの眺望

環境省中国四国地方環境事務所

発行：平成24(2012)年3月

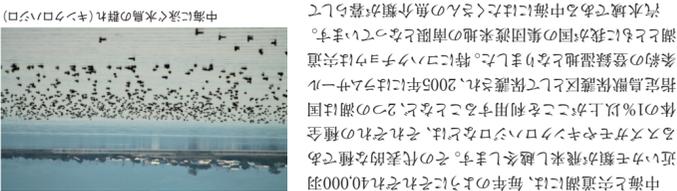
◀◀自然再生／ぐるっと中海ガイド 自然と景観／人々の暮らし▶▶



中海には、鳥根県と鳥取県にまたがる140,000羽近いカモ類が飛来し越冬します。その代表的な種であるスガモやキンクロハロソなどは、それぞれの種全体1%以上がここを利用することなど、2つの湖は国指定鳥獣保護区として保護され、2005年にはラムサール条約の登録湿地となりました。特にコウチヨウは宍粟半島で、中海にはたくさん人の魚介類が暮らしてきます。宍粟半島から人々にまでくみ込まれた。昭和30年代には、この水域で赤貝(カキ)の漁獲量は日本一でした。

また、水中や岸辺には多くの植物が暮らしています。カワノモ群落や、オオフサコ群落など、絶滅を危惧される希少な種も残っています。

これらの植物は、中海の自然環境から糧を得て子孫を残し、豊かな生物の多様性をはぐくんできたのです。



中海の自然と多様な生物

中海は、鳥根県と鳥取県にまたがる86,791㎡の面積をもつ我が国で5番目に広い湖で、斐伊川水系の河口部に位置し、海水と淡水が出会う場所にできた汽水湖です。中海は、水梁の上流部に位置する宍道湖(79.1㎢)と大橋川でつながり、2つの湖を合わせた日本最大の汽水水域です。

中海の位置と広さ

中海の自然と多様な生物

進める主体はNPO

4つの実施計画を中心になって進めるのは、中海で活動する3つのNPOで、国または地方公共団体との協働あるいは支援の下で、事業を進めることになります。なおこれらのほかに、協議会で提案され承認された6つの事業(ラムサール湿地・中海子どもパークレンジャー事業など)があります。

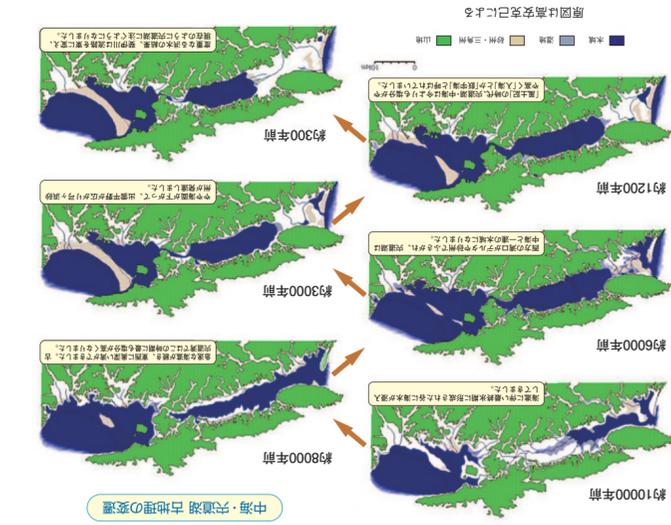


中海子どもパークレンジャー事業

<h3>自然再生センター</h3> <p>NPO法人自然再生センターは、中海の水質や生き立ちなどの大学研究者や美しい中海を守る住民運動を進めてきた人々が中心となって、2007年に設立されました。中海自然再生協議会の設立を呼びかけ、事務局を担っています。最近では中海を「食」から慣れ親しんでもらい、身近に感じてもらう活動を進めています。</p>	<h3>未来守りネットワーク</h3> <p>NPO法人未来守りネットワークは境港の企業人が中心となって地元の自然再生に投資してまちづくりを行うことを目的に1996年に発足、地元の子どもたち、漁協、企業の協力を得て、中海でアマモ・コアマモ再生事業に取り組んできました。2009年11月には全国アマモサミット2009を境港で開催し、中心的な役割を果たしました。</p>	<h3>中海再生プロジェクト</h3> <p>NPO法人中海再生プロジェクトは、2002年に「10年で泳げる中海」の目標をかかげ、地域の方々と一緒に中海体験クルージングや環境フェア、中海アダプトプログラムなどの活動を幅広く行っています。平成23年6月には「中海オープンウォータースイム2011」を活動10年の節目として行い、米子湾で泳ぐ夢を実現させました。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

どのように事業を進めるか

事業を実施する上で最も困難な問題は、そのための経費です。実施計画が認められても、ただちに予算がつくわけではありません。しかし、これらの実施計画は5年間をかけて、NPOと地域住民、専門家、関係行政機関、地方公共団体が一緒になって相談し、つくりあげてきたものです。推進法は平成20年に基本方針が一部変更され、「地域産業等との連携の重要性」、「自然再生を地域社会の活性化につなげる」、「自然環境学習にあたっての自然再生事業の積極的な活用」などが強調されました。同法が環境省、農林水産省、国土交通省の3省共同で担当することや、中海市長会・中海会議が進むなかで、中海や中海圏に注目が集まっています。このような背景の下で、NPOが中心となった中海再生の事業が進むことが期待されています。



地形形にみると、汽水湖としての姿を残している中海は、初めから今のよう姿をしていてたけではありません。この地域の様子の移り変わりを図で示しました。

15000年前頃に起きた活断層火山活動により、島根半島を作り出すこととなった火山の連なりが出来上がりました。1万年前から数千年間に海水の侵入により島根半島は島となっていました。その後、約9000年前頃には、島根半島の西側では、中国山地を穿する斐伊川や神戸川の流路が土石砂を運び、出雲平野が生まれ始めました。東側では、日野川の流れが運んだ土砂でワケ浜が形成されました。その後長い年月を経て約3000年前頃には、外海と隔った中海・宍道湖が作られました。その後の長年をを経て約300年前頃には、鳥根半島と中国山地を二分するように宍道断層が走っており、この断層の鹿島町古浦から上本町川部までの区間は活断層(鹿島断層)です。

中海・宍道湖の生き立ち

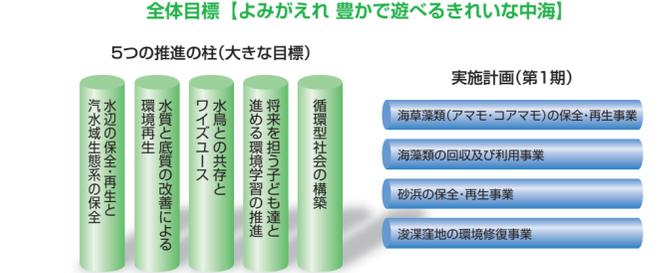
中海の自然再生

傷ついた中海

第二次世界大戦後の食糧不足を解決するために計画された、中海干拓淡水化事業がスタートして50年になります。鳥根側の掛屋および安来干拓地の干し上げと鳥取側の弓浜および彦名干拓地の埋め立ては完成しましたが、2000(平成12)年には最大の干拓予定地の本庄水域の干し上げは中止、2009(平成21)年には中海宍道湖をすべて淡水にする大計画も中止となり、事業は終了しました。中海ではもとの地形が大きく変わり、岸ぞいの浅場とそこに生えていたアマモは消失、名産のサルボウガイ(アカガイ)も姿を消しました。さらに工場用地や宅地造成のために土砂を湖底から取ったことから、湖底には800万tという巨大な浸淫窪地が残されました。傷ついた中海の自然は、どのように修復したらよいのでしょうか。

自然再生推進法と中海自然再生協議会

そのよりどころとなるのは平成14年に制定された「自然再生推進法」です。NPO法人自然再生センターの呼びかけで平成19年6月に「中海自然再生協議会」がつくられました。環境省・国土交通省・農林水産省、鳥根県・鳥取県、中海をとりまく松江市・安来市・米子市・境港市とNPO・住民団体などが加わって、『よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海』を合言葉にした全体構想を平成20年11月に策定、5つの柱(大きな目標)の下に自然再生をすすめることにしました。目標とするのは昭和20年代後半から30年代前半の中海です。そして4つの実施計画案がつくられました。これからは、国の専門家会議の意見を聴くなどの手続きを経て、事業の実施へと進むことになります。

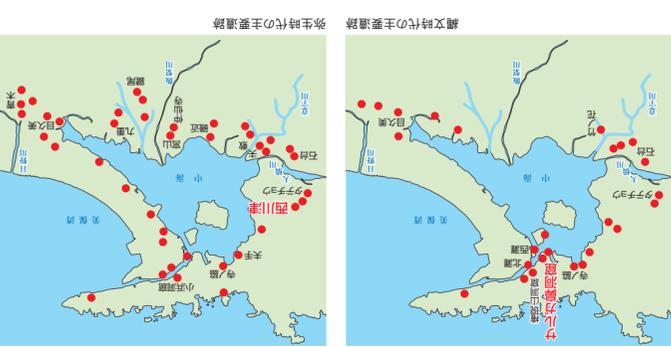


中海と古墳時代の時代の人々

農耕の進展に伴い、アラの首長の支配が進み勢力の象徴として、大規模な古墳文化が形成されました。安来市の中海を望む丘陵には、大塚の四隅突出型墳丘墓が並んでいて、当時の勢力の象徴を示しています。

古事記や出雲国風土記に載せられた時代になると、中海とのかかわりは増え強まります。律令制度の整備に伴い、出雲地方の中心が出雲国府のもとに、意宇平野を中心に展開されました。今でも残った整備に似て、中海の中心が意宇平野を担っています。

農耕の進展に伴い、アラの首長の支配が進み勢力の象徴として、大規模な古墳文化が形成されました。安来市の中海を望む丘陵には、大塚の四隅突出型墳丘墓が並んでいて、当時の勢力の象徴を示しています。



中海とその周辺に住む人々とは、太古の昔から深いかかわりを持って暮らしてきました。中海周辺には、縄文時代の遺跡が数多く発見されています。なかでも、国指定遺跡であるサルガ原遺跡では、縄文早期から晩期に至る土器、石器、人骨、自然遺物など多数が発見されました。縄文時代には、縄文土器の遺跡が数多く発見されています。なかでも、国指定遺跡であるサルガ原遺跡では、縄文早期から晩期に至る土器、石器、人骨、自然遺物など多数が発見されました。縄文時代には、縄文土器の遺跡が数多く発見されています。なかでも、国指定遺跡であるサルガ原遺跡では、縄文早期から晩期に至る土器、石器、人骨、自然遺物など多数が発見されました。

中海と縄文・弥生の人々

中海の人々の暮らし



- 大根島**
由志園・庭園、ボタン園 TEL0852-76-2252
大根島火山岩溶洞穴(第1・第2)
大塚山(標高42m・大根島火山スコリア丘)
- 目無水**
- 矢田の渡し**
- 風土記の渡し**
鳥根県立八雲立つ風土記展示学習館 TEL0852-23-2485
古代出雲の歴史の舞台となった意宇平野を望む丘陵上にある古代出雲の展示学習資料館
- 阿太加夜神社**
12年に1度、日本三大船神事「ホーランエンヤ」がくり広げられる
- 飯梨川河口三角州・マッドランプ**
白砂が美しい素晴らしい景観
- 和銅博物館**
たたら製鉄を中心とした博物館 TEL0854-23-2500
- 安来干拓地**
サイクリングに最適
- 湊山公園**
米子城跡・山頂からは国立公園大山・島根半島・中海・米子市が一望
- 米子水鳥公園**
中海の水鳥の飛来地 TEL0859-24-6139
- 皆生温泉**
海水浴場と一体の温泉 TEL0859-34-2888
- サイクリングロード(月ヶ浜自転車ロード)**
米子市内から境港までの米川沿いにある、長さ約25kmの自転車道
- JR境線**
水木しげるロードへ運ぶ妖怪列車運行
- 海とくらしの史料館**
水のない水族館 TEL0859-44-2000
- 水木しげるロード**
水木しげる記念館 TEL0859-42-2171
- 美保神社**
国指定重要文化財、大神を明神様・おび様として漁業の祖神
- メテオプラザ**
太陽系誕生に伴う美保隕石の展示 TEL0852-72-3939
- 権現山洞窟住居址**
国指定縄文遺跡
- サルガ鼻洞窟住居址**
国指定縄文遺跡
- 穴道断層の崖**
- 弁慶島**
弁慶の伝説が残る島
- 枕木山**
山頂からは中海・大山が一望できる

鳥根、鳥取両県は「中海自然再生協議会」での話し合いをもとに、豊かな中海の自然と文化を全国の人々に一層理解してもらえよう、中海周遊サイクリング、EVCアーユエツアーなどの企画を取り入れ観光に力を入れていきます。また中海のオコリ等「瀬」、利用、エールマークの開発、提供を通して中海を人々のくらしの中にとりもどすよう進めています。

これからの中海の活用

管理のもとにいくすによる魚類養殖や漁業権管理を行い、生活と密接に結びついていきました。またこのころ、赤い漁船が活躍していました。

取入源化した。今でも、大根島では雲州人参の栽培が行われています。

瀬の重要な品質管理のもとに行われていた水産栽培と大根島の雲州人参栽培とは、瀬の大切な行ってきました。

江戸時代になると、北海道から日本海側の諸国と関西との物流を担う北前船の行き来が盛んになり、明治始めころまで、寄港地となった美保関の瀬は日本海各地の産物でにぎわいました。また、宍道湖・中海でも、年貢米を大坂や尾道へ売却するための松江瀬の御手船や船業者の船が、盛んに往来していました。

中海と江戸時代の人々



約700mで、瀬草、宍道湖、中海の魚介類、日本海の海産物、野菜、橋の本などが取引されていました。出雲国府から矢田の渡しを経て千両の浜から隠岐国まで航していた道が今でも残っています。

